

三島 伸介 氏の学位審査結果の要旨

主査：葛 幸治

副査：野村 昌作、藤澤 順一

ビルハルツ住血吸虫はヒトを終宿主とする吸虫である。本研究は、マラウイにおけるビルハルツ住血吸虫卵陽性率の年齢別分布状況と、その感染対策を行う上での補助診断法の有用性の解明を目的とした。マラウイは水稻栽培中心の農業国で、そこでの農作業は淡水域との接触が避け難く、農業に従事する労働者はビルハルツ住血吸虫の感染リスクに曝される。本調査地域にて、全世代のうち主要な労働力世代である 20 歳代の虫卵陽性率が最も高いことが示された。マラウイの労働者はビルハルツ住血吸虫感染リスクがあるにも関わらず、これまで職業性因子が勘案されておらず、労働関連感染症の側面を持つ可能性を意識した労働者の健康管理を行うことが重要だと考えられた。また、虫卵陰性者では 90%前後の確率で尿検査用試験紙による尿潜血検査が陰性となったことも確認され、この検査で駆虫対象者を選別すれば、医療資源の乏しい地域においても感染対策費用軽減の可能性が示唆された。本研究の成果は、今後のビルハルツ住血吸虫症流行地域における労働者の健康管理を行う上での意識変容の一助として寄与するものであり、学位に十分値すると考えられる。